

〈図書紹介〉

『こども六法』

山崎聡一郎著 弘文堂 2019年

立命館大学教職大学院2年次生 林田あかり

『こども六法』は、法律をわかりやすい言葉とイラストを織り交ぜて書かれたこども向けの法律書である。通常、「六法」は日本国憲法、刑法、民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法で構成されているが、『こども六法』では、商法の代わりに、少年法といじめ対策推進法を加えて構成されている。著者はいじめにまつわる実体験から、「子どもだったあの頃の自分に贈りたかった一冊」として本書を書いたという。法律を白黒つける線引きのためのツールではなく、弱い立場に置かれている子どもに、法律という心強いツールを提供することで寄り添う内容となっている。著者の願いは、内容や仕様の端々に反映されている。漢字にはすべてふりがながふられ、さらに、読者があらゆる情報にアクセスできるよう、SOS相談窓口の電話番号やURLなども記されている。こども向けの本ながら、大人も読むべき一冊として、SNS等でも話題となった。これまで、潜在的に必要だと求められていたにも関わらず出版に至らなかった。

本著は、2019年8月30日に初版が発行された。それから1年以上が経過し、私たちを取り巻く社会の状況は大きく様変わりした。新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛生活の中で、大人も子どもも、先行きの見えない不安に駆られた。雇用の不安定さや経済状況の悪化、生活スタイルの急激な変化によるストレスは、暴力やうつといった形で、心や身体に現れる。悲しいことに、そういったしわ寄せの犠牲となっ

てしまうのは、子どもをはじめとした弱い立場にある人たちである。厚生労働省によると、児童相談所が対応した件数は2020年1月からの半年間で9万8000件余りに上り、過去最多のペースとなっているという。「昨今はいじめのほかにも児童虐待、性的搾取といった理不尽な危険に子どもたちは晒されています。そして恐ろしいことに、いじめ問題も含め、そういった問題を深刻化させるのはしばしが大人たちの『見て見ぬふり』なのです」と、著者はあとがきの中で触れている。

まさに今、子どもたちの命と権利を守るために、法律という枠組みがあることを、本書を通して伝えたい。また、当事者である子どもたちのSOSに高くアンテナを張り、然るべき支援に繋げていく必要がある。そのためには、法律という共通の枠組みを周囲の大人が理解しておくことで、早期の対応や大人が連携する一助となる。そのためにも、本著はだれもがアクセスできるように、本棚に備えておきたい一冊だ。

